

株式会社 東京精密 2016年度(平成29年3月期) 決算説明会

2017年5月12日
株式会社東京精密
代表取締役社長CEO 吉田 均

*

- ◆ 本プレゼンテーション資料及びノートにて提供する情報は、現時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
- ◆ これらは、市況、競争状況、半導体業界ならびに自動車関連業界等の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。
- ◆ 従って、今後の当社の実際の業績が、本プレゼンテーション及びノートにおける記述と大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

2016年度 通期業績

単位: 億円	15年度	16年度		16年度 2月予想	予想対比 (億円)
	通期実績	通期実績	前期比		
売上高	703	778	+11%	725	+53
半導体製造装置	418	503	+20%	465	+38
計測機器	285	275	-4%	260	+15
営業利益	132	137	+3%	130	+7
半導体	73	88	+20%		
同率	18%	18%	-		
計測	59	48	-18%		
同率	21%	18%	-		
経常利益	132	139	+5%	128	+11
<small>親会社株主に帰属する</small> 当期純利益	97	99	+2%	94	+5
1株配当	59円	72円	+13円	68円	+4円

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

3

- 通期業績は、半導体製造装置事業(以下半導体)が堅調で増収増益
 売上高 778億円 (半導体 503億円、計測機器(以下計測) 275億円)
 営業利益 137億円 (半導体 88億円、計測48億円)
 経常利益 139億円、親会社株主に帰属する当期純利益(以下当期純利益) 99億円
- 年間配当は1株当たり72円を予定 (中間配当 34円、期末配当 38円)
 前期比13円、2月予想対比 4円の増配
 (詳細は2017年5月12日公表の「平成29年3月期剰余金の配当に関するお知らせ」をご覧ください)

2016年度 第4四半期業績

単位: 億円	15年度				16年度					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前四半期比 Q/Q	前年同期比 Y/Y
売上高	184	196	144	179	163	209	195	211	+8%	+18%
半導体	123	116	78	101	110	133	132	128	-2%	+27%
計測	61	80	66	78	53	76	63	83	+30%	+6%
営業利益	39	38	22	34	29	37	32	39	+24%	+16%
半導体	29	20	9	16	22	22	21	23	+8%	+43%
同率	24%	17%	12%	16%	20%	17%	16%	18%	-	-
計測	10	18	13	18	6	15	11	16	+57%	-8%
同率	16%	22%	19%	23%	12%	20%	17%	20%	-	-
経常利益	39	37	23	32	26	37	35	41	+18%	+26%
親会社株主に帰属する 当期純利益	28	27	17	25	19	28	14	39	+183%	+55%

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

4

○ 第4四半期(2017年1-3月期、以下4Q)の業績概要

売上高 211億円(半導体 128億円、計測 83億円)

営業利益 39億円(半導体 23億円、計測 16億円)

経常利益 41億円、 当期純利益 39億円

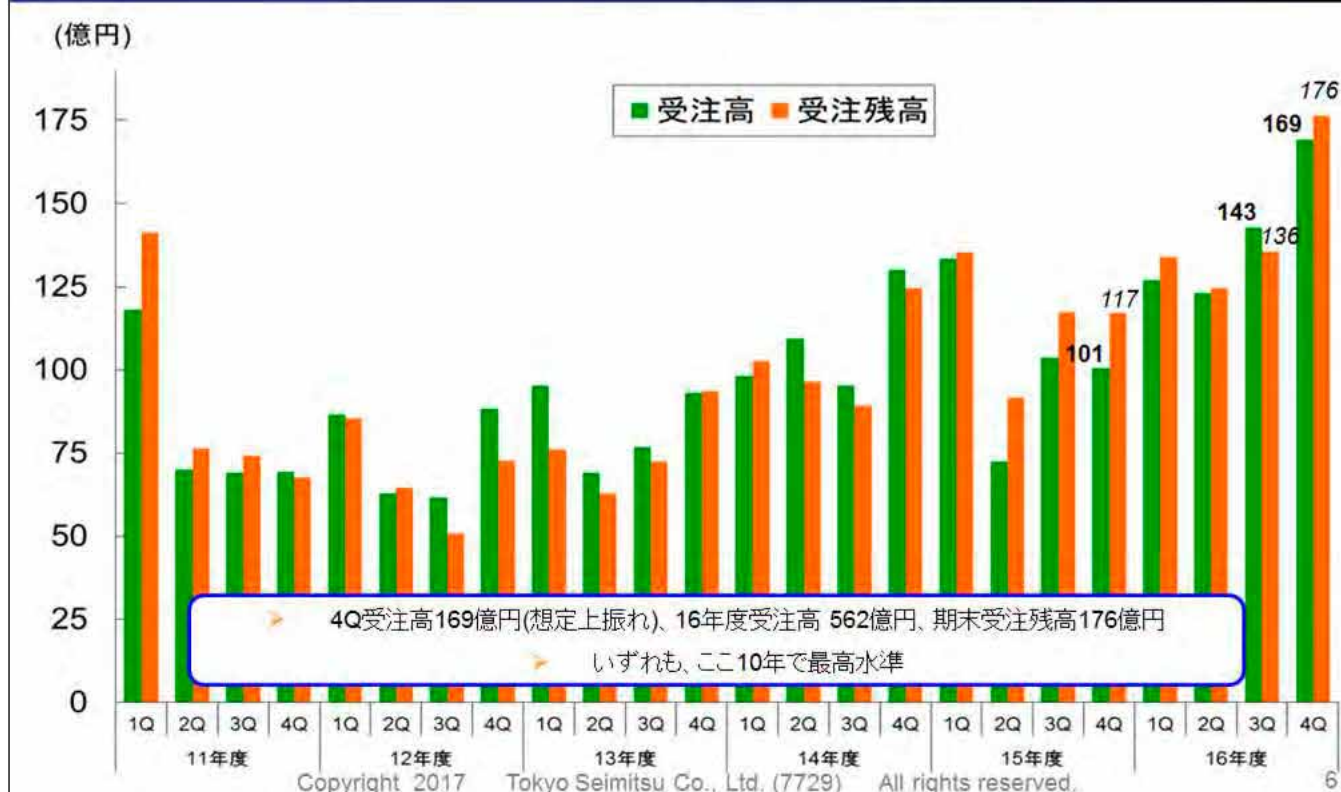
○ 総じて前四半期、及び前年同期を上回る水準で着地

半導体事業 - 売上・営業利益推移



- 4Qもメモリ・車載デバイスなどを中心に需要が継続、
売上高は想定を上振れ、営業利益も前四半期比増加
- 半導体は、年を通じて好調な推移となった

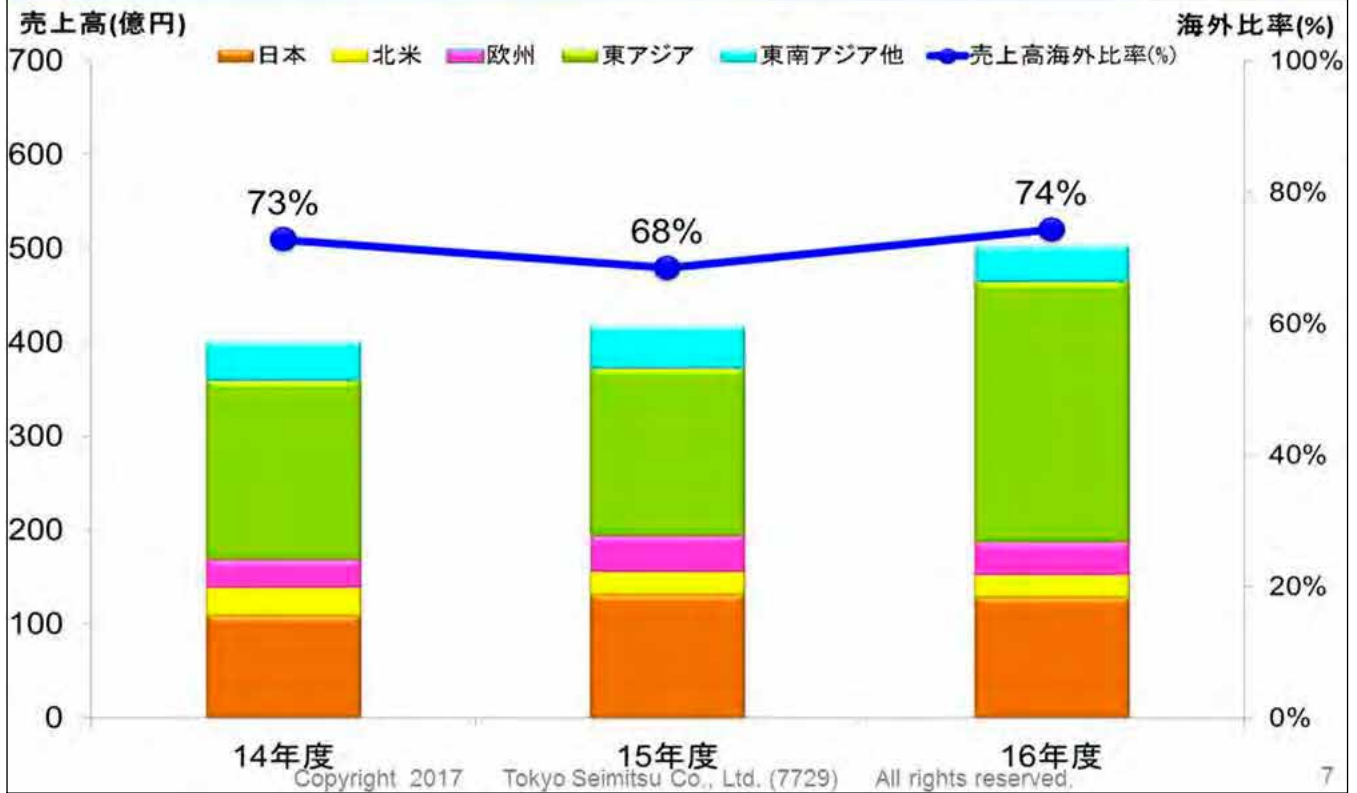
半導体事業 - 受注・受注残高推移



- 4Qは検査装置に加え、加工装置の需要も増加し、受注高は169億円となった
 通期受注高(562億円、前期比37%増)、期末受注残高(176億円、同59億円増)と
 ともに、ここ10年で最高水準

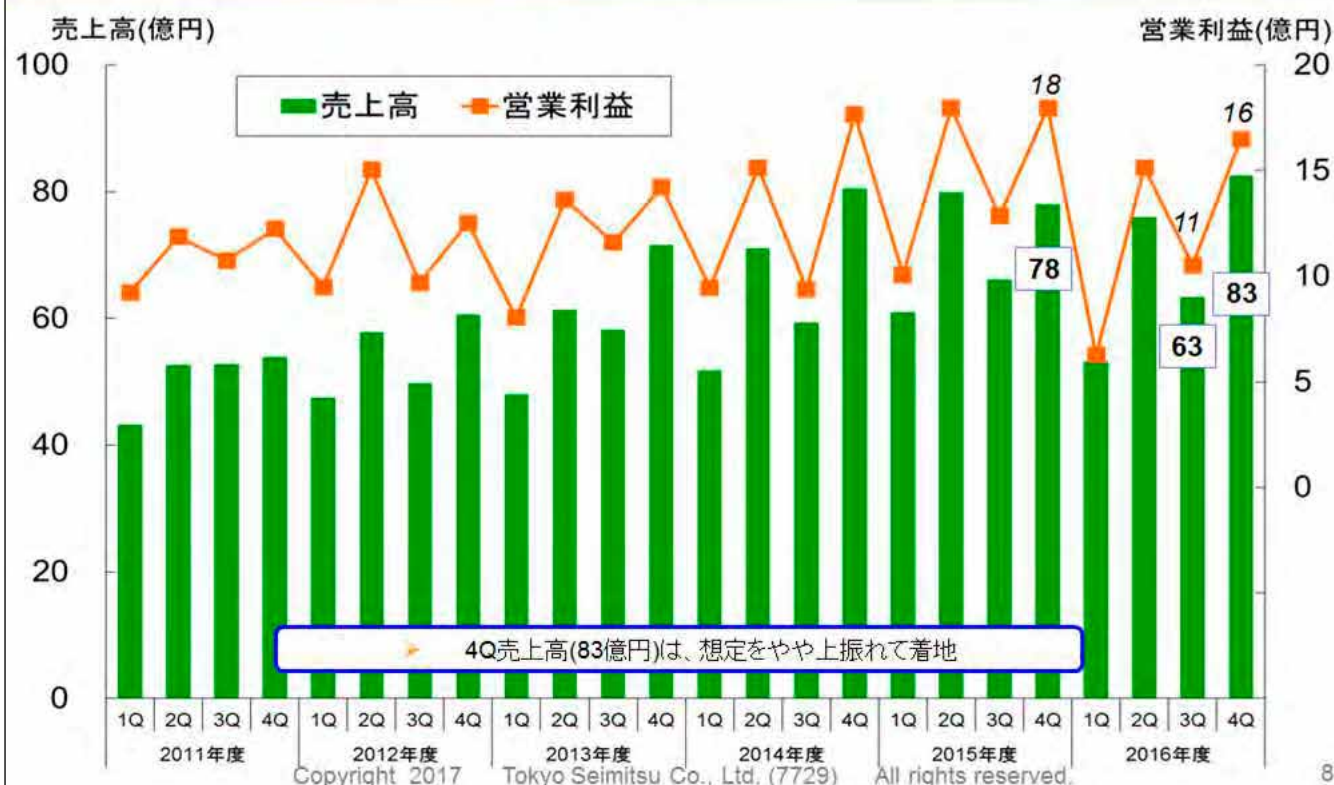


半導体事業 - 地域別売上高推移



- 半導体事業の海外売上比率は74%
- 特に東アジア地域(緑色)での売上が増加
台湾向けが堅調を維持した事に加え、中国向けが増加したため

計測事業 - 売上・営業利益推移



- 計測事業の売上高(83億円)は想定を上振れて着地
- 通期で見ると、上期の円高ドル安による一部顧客の投資抑制や、外需の低迷により、前年度対比でやや弱い推移となった

計測事業 - 受注・受注残高推移



○ 計測事業の第4Q受注高は73億円

国内の自動車/航空機関連が底固く推移したうえ、外需にも底打ち感が出たことで、
2四半期連続で増加

○ 通期受注高は273億円(前期比3%減)

計測事業 - 地域別売上高推移



○ 計測事業の海外比率は31%

○ 国内売上高は微増となったが、外需減少の結果、海外比率が低下

2016年度 貸借対照表

資産 (億円)	16/3末	17/3末	増減	負債/純資産 (億円)	16/3末	17/3末	増減
現預金	274	339	+65	支手・買掛金, 電子記録債務	118	158	+40
受取手形・ 売掛金・ 電子記録債権	260	284	+24	短期借入金	12	13	+1
在庫	161	173	+12	その他	84	95	+11
その他	32	32	-0	流動負債計	214	266	+52
流動資産計	727	828	+101	固定負債計	11	7	-4
固定資産計	292	317	+24	負債計	225	273	+48
資産合計	1,019	1,145	+125	純資産	794	872	+78
				負債・純資産合計 (内有利子負債)	1,019 (16)	1,145 (13)	+125 (-3)

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

11

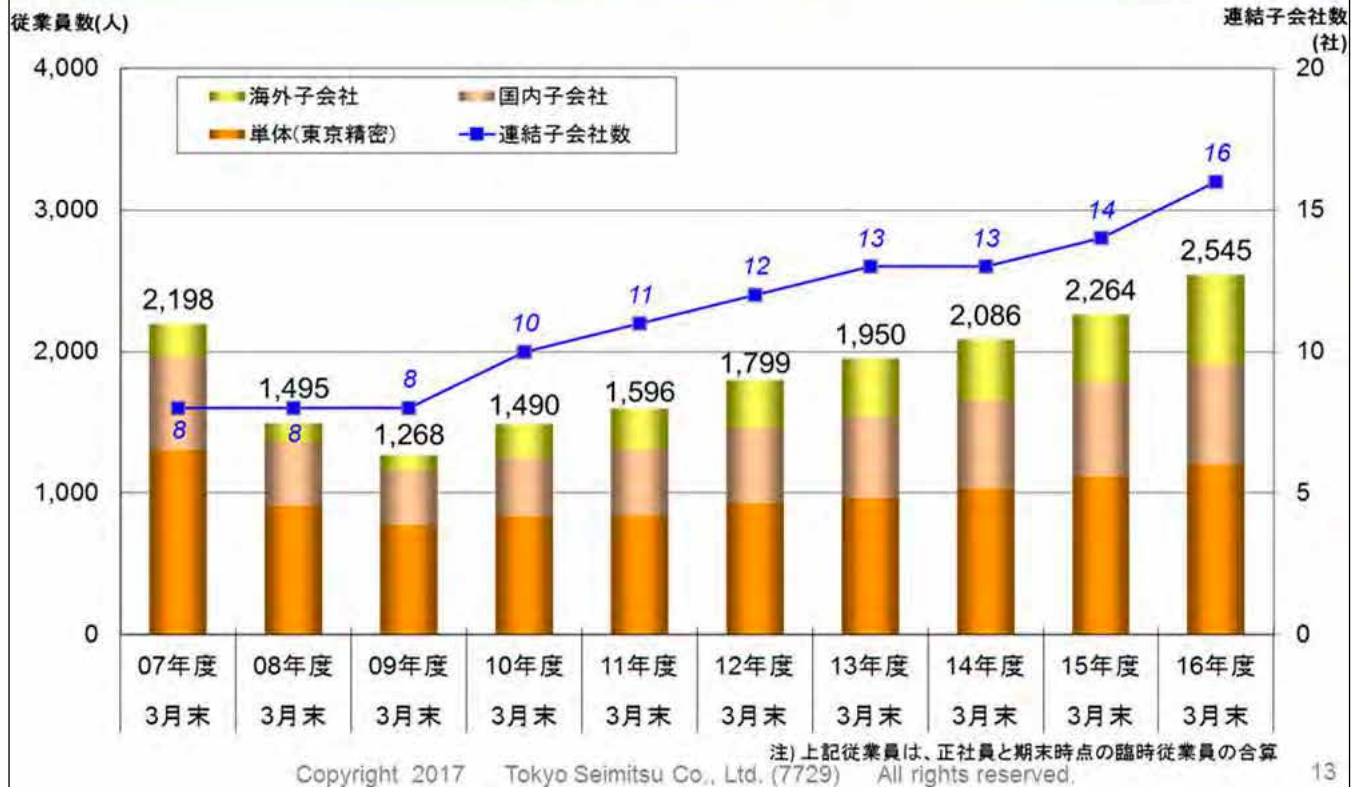
- 期末総資産 1,145億円(前期末比125億円増)
- 資産増加の内訳： 流動資産 101億円増、固定資産 24億円増
 - 流動資産： 現預金 65億円増、売上債権 24億円増、在庫 12億円増など
 - 固定資産： 建物・構築物等 24億円増など
- 負債合計は、買掛債務の増加等により合計48億円増、純資産は78億円増
- 自己資本比率は 75.5%、 3月末 有利子負債残高は13億円

2016年度 キャッシュフロー

単位: 億円		14年度	15年度	16年度
現金等 期首残高		204	268	273
営業活動	税引前・償却前利益	151	155	169
	(売上債権+在庫) - 仕入債務	- 20	- 42	- 1
	納税	- 21	- 38	- 36
	その他	- 2	- 3	- 4
	小計	108	72	128
投資活動		- 30	- 38	- 35
フリーキャッシュフロー		79	34	93
財務活動	社債・借入	- 4	- 5	- 3
	株式・配当金、他	- 14	- 23	- 26
	小計	- 18	- 28	- 30
増減額(含 換算差額・連結範囲変更)		64	5	65
現金等 期末残高		268	273	338

- 営業活動キャッシュフロー(以下CF)は、128億円のプラス(利益計上等が主因)
- 投資活動CFは、35億円のマイナス(工場建設関連の支出等が主因)
- この結果、フリーCFは93億円
- 財務活動CFは、30億円のマイナス(配当支払等が主因)
- この結果、期末の現金等の残高は338億円

従業員数推移

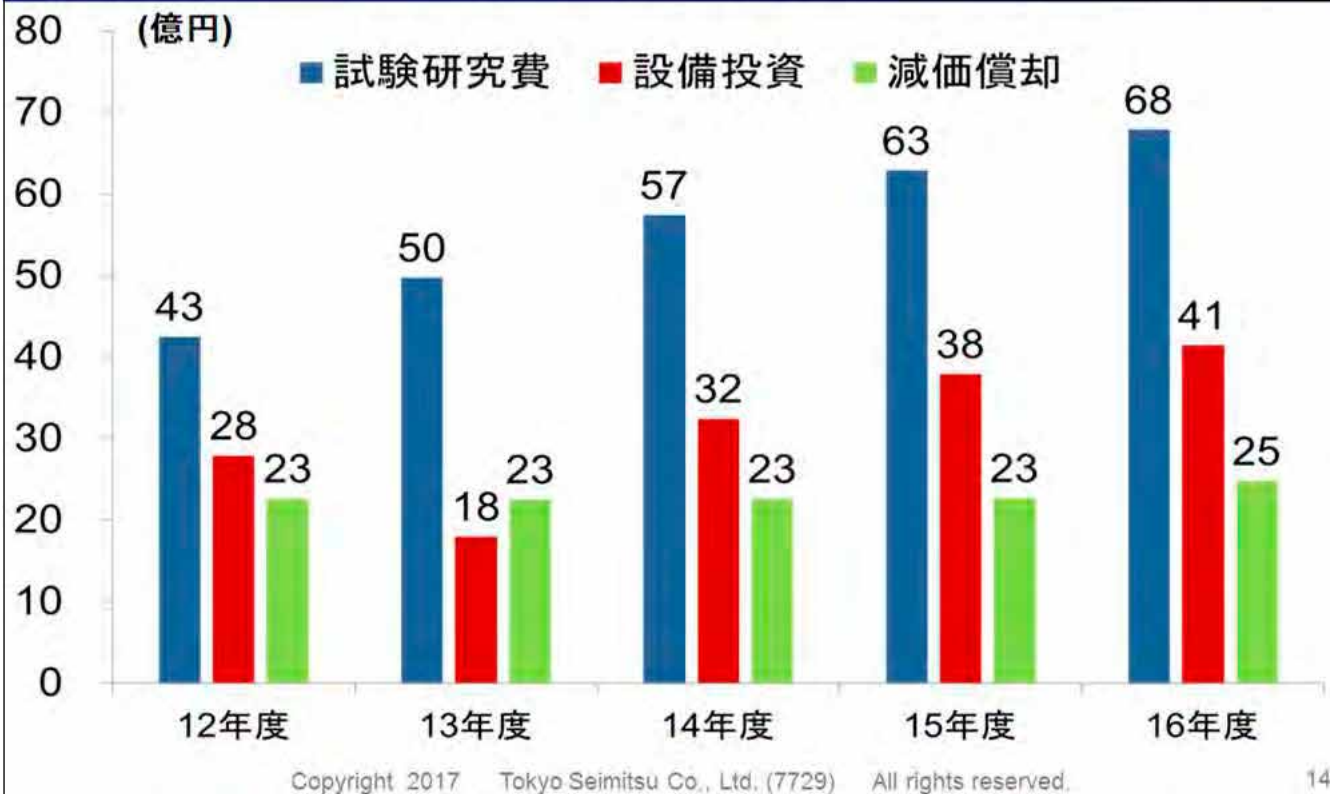


○ 17年3月末の連結従業員数(臨時含む)は2,545名 16年3月末比 281名の増加

○ 増加要因は、

- 単体及び国内子会社：開発及び製造人員の増加
- 海外子会社：営業・サービス人員の増加 および、
連結子会社増加による 製造人員等の増加

試験研究費、設備投資、減価償却



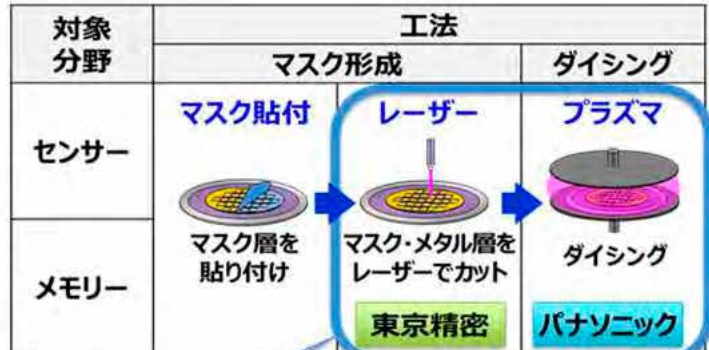
- 16年度の試験研究費実績は68億円(製品競争力強化)
- 設備投資実績は41億円 (八王子第6工場 など)
- 減価償却は25億円

2016年5月
八王子第6工場 竣工



大型半導体装置の製造能力を大幅増強
また、アプリケーションルームを大幅拡張

2017年2月7日 発表
プラズマダイシング工法の普及に向けた協業



今回の協業

© Panasonic Factory Solutions Co., Ltd. 2017

「レーザーグルーピング(溝加工) + プラズマダイシング工法」の普及に向け、パナソニックファクトリーソリューションズ(株)と協業

○ 2016年度のトピック:

- 2016年5月 八王子第6工場が稼働を開始
⇒大型装置の製造能力大幅増強、アプリケーションルーム大幅拡張
- 2017年2月 プラズマダイシング工法の普及に向けパナソニックと協業に合意
3Qを目途にレーザーグルーピング装置の量産機を提供予定

◆ 半導体製造装置

- 足許の市況は堅調
- メモリ・車載向けや、中国向け需要に継続期待
- スマートフォン販売動向は引き続き注視

◆ 計測機器

- 内需・自動車/航空機向けは引き続き堅調
- 外需(特に中国)は底打ち感が出ている
- 連動性の高い 工作機械業界が回復

○ 半導体製造装置の足許環境は好調を維持

17年度を通じて、メモリ・車載デバイス及び中国向け需要に期待

一方、スマートフォンの販売動向は、業績変動要因となるため、引き続き注視

○ 計測事業は緩やかな回復基調に戻ると予想

内需、自動車/航空機関連は引き続き堅調

16年度に低迷した外需は、特に中国で底打ち感が見られ、今後の回復に期待
工作機械受注が回復傾向

2017年度 通期業績予想

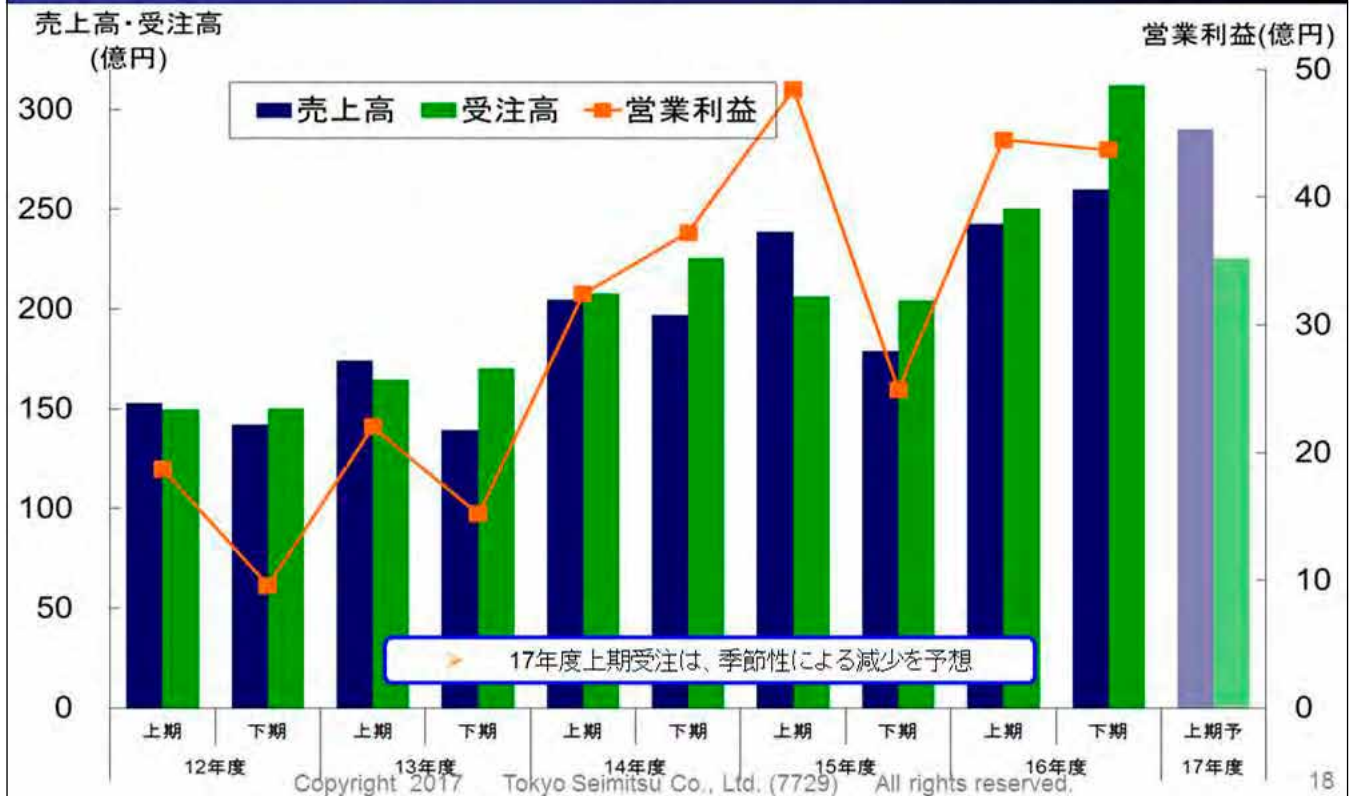
単位: 億円	16年度			17年度			前年比
	上期	下期	通期	上期 予想	下期 予想	通期 予想	
売上高	372	406	778	423	367	790	+2%
半導体	243	260	503	290	220	510	+1%
計測	129	146	275	133	147	280	+2%
営業利益	66	71	137	78	62	140	+2%
同率	18%	17%	18%	18%	17%	18%	-
経常利益	63	76	139	78	62	140	+1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	47	52	99	56	44	100	+1%
1株配当	72円			72円			±0円

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

17

- マーケット概況を踏まえた、17年度通期の業績予想は
売上高 790億円、営業利益140億円、経常利益 140億円、当期純利益100億円
- 配当方針 (配当性向30%目安)を踏まえ、通期1株配当予想は72円

半導体事業 - 売上・受注高 見込



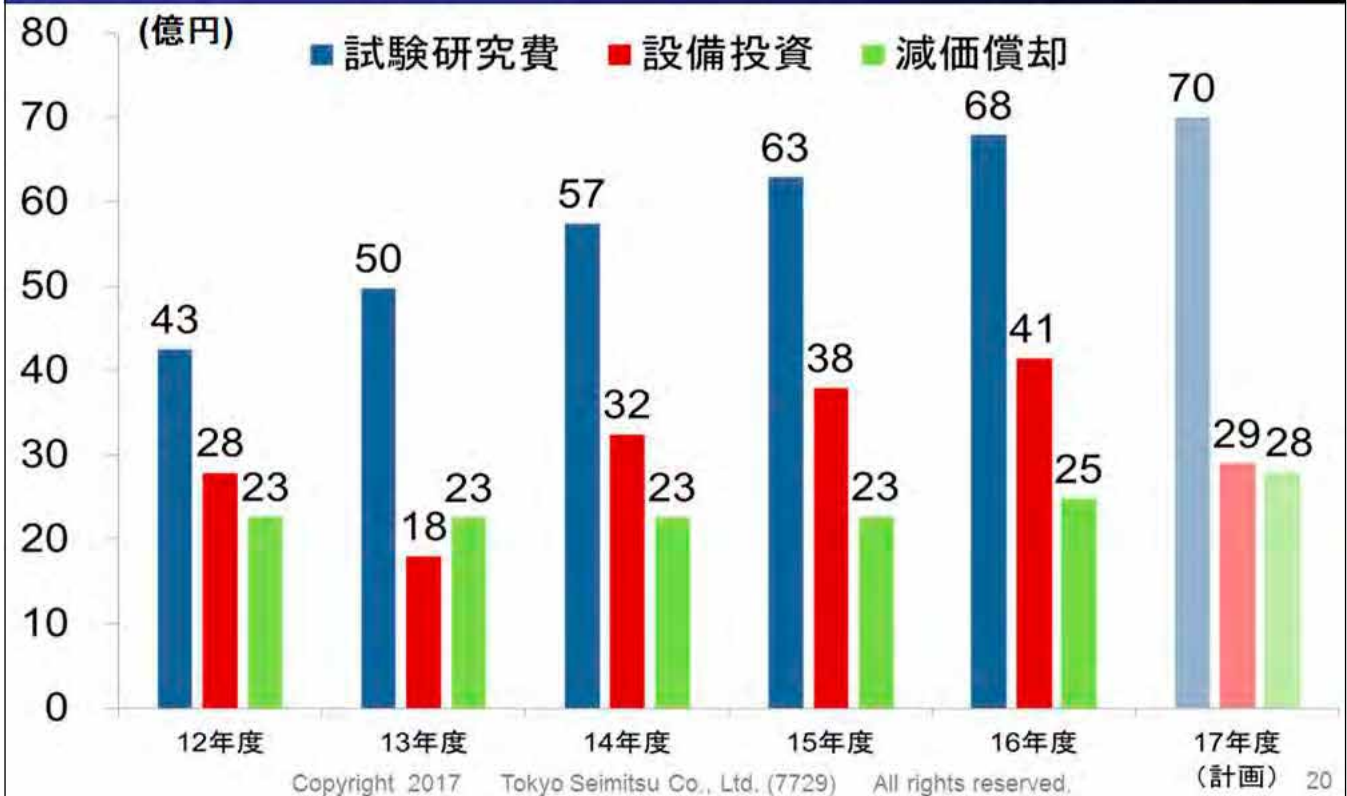
- 17年上期の半導体事業売上は、受注残高を勘案し、増加を予想
一方、受注は、夏場の季節的な減少を織り込む

計測事業 - 売上・受注高 見込



- 17年度上期の計測事業の受注高は、外需に回復の兆しが見えることから対16年度下期で増加を予想

試験研究費、設備投資、減価償却 推移・計画



- 17年度 研究開発費計画は70億円、引き続き開発を精力的に進める
- 設備投資計画は29億円、機械設備投資などを見込む
- 減価償却は28億円を見込む

**世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品
を創り出し、皆様と共に大きく成長してゆく**

理念を示すモットー:

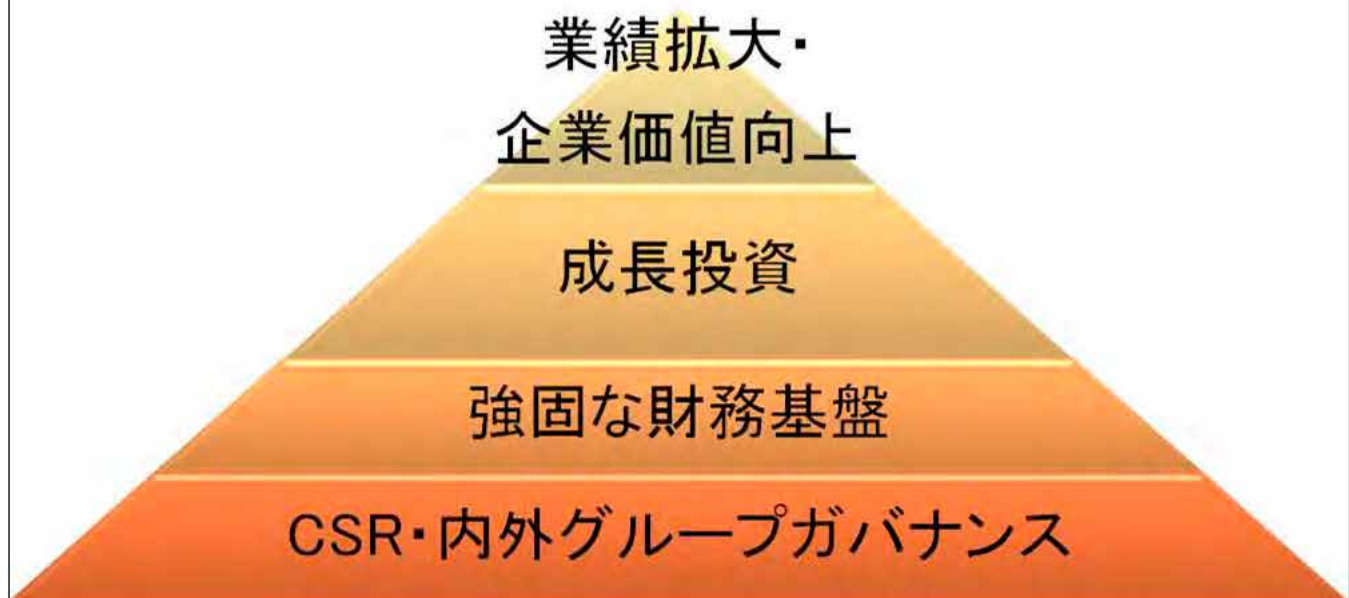
「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう」
WIN-WIN relationships create the World's No. 1 Products

コーポレートブランド:

ACCRETECH

“Accrete (共生)” と “Technology(技術)” の合成語

- 長期指標のベースにある、当社の企業理念は:
「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して
世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長してゆく」
- これを簡潔に表すモットー、及びコーポレートブランド
「ACCRETECH(アクレテック)」を掲げ、理念の実現に取り組んでいる



- ベースとして CSR、内外グループガバナンスに基づく強固な財務基盤が必要
- これらを基に成長投資を続け、継続的な業績拡大と企業価値向上を図る
- 当社ホームページにCSR報告書を開示している
(http://www.accretech.jp/csr/files/csr_report2016.pdf)

半導体 事業

- ・ 強み: 精密位置決め制御技術、内製化
- ・ チャンス: 新技術・新デバイス

計測 事業

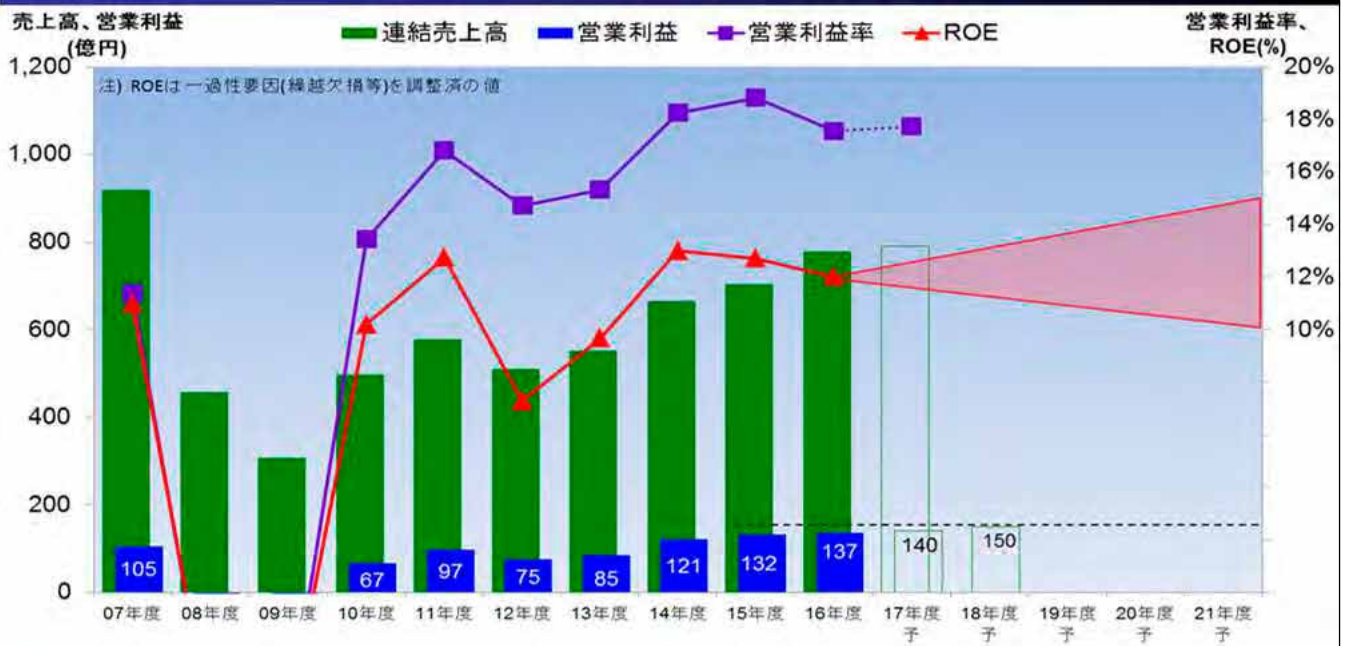
- ・ 強み: 高精度・高分解能測定技術、信頼性
- ・ チャンス: 新分野・新興国を含む海外需要

- ・ バランスの取れた事業構成
 - 異なる事業領域を有することによる安定性(需要変動影響を吸収)

- 当社の半導体事業は、精密位置決め制御技術と、内製化が強み
半導体新技術・新デバイスなどが業容拡大のチャンス
- 計測は、高精度及び高分解能を実現する測定技術と、その信頼性が強み
信頼性を必要とする新分野や、海外需要などが業容拡大のチャンス
- 需要の波が異なるセグメントを有する事業構成が、全社業績の安定に寄与



長期的な指標、中期目標



- ◆ 長期指標: ROE 10%以上の企業体質の維持
- ◆ 中期目標(~18年度): 営業利益 既往ピーク150億円の更新

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

24

- 当社の長期指標と中期目標に変更なし
- 長期指標「ROE(自己資本利益率)10%以上の企業体質を維持する」
中期目標(~2018年度)「営業利益 既往ピーク150億円の更新」
16年度のROEは12.0%
引き続き業績拡大と利益率の維持改善を両立したい

メインストリーム(主力マーケット)で競争力を高めつつ
安定需要・成長期待分野へ資源投下

半導体

主力市場:

- ・モバイル
- ・ストレージ
- ・自動車



安定需要・成長市場:

- ・中国市場
- ・ノンシリコン/基板
- ・消耗品



計測

主力市場:

- ・自動車及び自動車部品
- ・工作機械



安定需要・成長市場:

- ・航空機
- ・オートメーション
- ・海外市場

継続的な売上と利益の拡大

- 半導体・計測両事業に共通する戦略の骨格は、
主力市場で製品競争力を維持しつつ、
安定需要、または安定成長が期待される分野へ資源を投下すること

最終製品



モバイル



ストレージ



車載デバイス



プローバ:

- 「デパート化」であらゆるニーズ対応
 - 耐環境製品の開発・展開
 - メモリの生産性向上など



ダイサ・ブレード:

- 「ソリューション力」強化
 - 電子部品向け対応力強化
 - 他装置との包括プロセス提案 など



PG/研削装置:

- 最先端プロセス対応
 - 高精度、新材料(SiC、GaN等)対応強化
 - 他装置との包括プロセス提案 など

継続的な売上と利益の拡大

- 安定・成長が見込まれる代表的な最終製品はモバイル、ストレージ、車載デバイス
- これらに個別に要求されることを、各製品ごとに戦略に落とし込んでいる



新製品による 売上の拡大

安定・成長業界への製品投入
光学測定機の拡販

海外における 売上の拡大

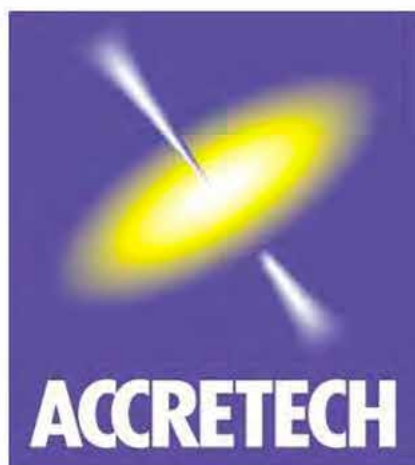
自動化・IoT対応
世界拡販モデルの市場投入

継続的な売上と利益の拡大

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

27

- 計測事業の戦略は大きく分けて2つ
- 新製品売上の拡大: 安定・成長する業界への製品投入と、光学測定機器の拡販
- 海外売上の拡大: 自動化・IoT(モノのインターネット)対応と世界への拡販を狙ったラインナップの拡充



東京精密は
アクレーテクです